

# 議会活性化特別委員会 報告

## 1. 委員構成

委員長：辰川志郎

副委員長：中川敬雄

委員：上野清隆、若林 高、荒谷啓一、一色眞一、東野真樹、南出貞子、中谷喜英、今津和喜夫

## 2. 調査目的

議会改革、広報・広聴に関する調査研究

## 3. 調査期間

令和3年11月1日～令和4年9月26日

## 4. 委員会等開催状況

	委員会	意見交換会	行政視察
令和3年	2回	0回	0回
令和4年	9回	0回	1回
合計	11回	0回	1回

## 5. 協議事項件数

29件（令和3年：6件、令和4年：23件）

## 6. 意見交換会

◆新型コロナウイルス感染症の影響により実施なし。

## 7. 行政視察

◆4月18日 福井県小浜市議会

「議場内投票システム（電子採決）、政策討論会、その他、議会改革全般について」

◆4月19日 愛知県半田市議会

「議員間討議（自由討議）、コロナ禍での議会活性化の取組、その他、議会改革全般について」

## 8. 主な取組事項

### ① 議会基本条例の検証

改選に伴い、議会の取組実績や全議員からの意見聴取の結果を踏まえ、議会基本条例の目的が達成されているかについて検証し、その結果を報告書にまとめて議長に提出した。

条例中、第4条（災害時の対応）について、新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、災害だけでなく、感染症の蔓延等、緊急事態の場面を広く想定した内容に改め、また、非常時の議会対応として、オンライン会議の開催など、情報通信技術の活用を盛り込んだ内容を検証結果として報告した。

## ② 議会報告会「議会おでかけトーク」の実施

令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルスの影響により開催できなかったが、今年度は3年ぶりに感染対策をしっかりと行いながら、実施要綱に基づき市内10会場（まちづくり単位）で開催した。

当日は、まず議会基本条例に基づく取組について4点報告し、その後、今年度から初の試みであるグループトーク方式による意見交換を行った。グループトークでは、各グループの議員が進行役となり意見交換を行った。

参加者へのアンケートの結果では、グループトーク方式に対し、「とても気軽に意見・考えを発言することができた」、「比較的気軽に意見・考えを発言することができた」と回答した方が8割を超えており、参加者からは活発なご意見・ご提案をいただくことができた。

今後は、アンケート結果などを参考にしながら、令和5年度に生かしていく必要があると思われる。



議会報告会当日の様子

## ③ オンライン会議の実施に係る委員会条例及び会議規則の改正

議会基本条例の検証結果を受け、人が集まることが困難であり、または人が集まることそのものを控える必要がある「新型コロナウイルス感染症等の重大な感染症対応時」や、人が集まることが困難な台風、地震等の「大規模災害等の発生時」に限り、委員長の判断によってオンライン会議を開催できるものとし、それに伴う委員会条例及び会議規則の所要の改正を行った。

令和4年8月22日の議会運営委員会及び全員協議会においては、実際にウェブ会議用アプリを用いて、オンライン会議を実施した。



オンライン会議の様子

(令和4年8月22日 全員協議会)

## ④ インスタグラムの運用開始

広報部会を中心に、新たなSNSの活用について検討し、令和4年4月に議会Instagramの運用を開始した。

今後、議会フェイスブックと並行して運用し、さらなる広報の充実強化を図るとともに、議会Instagramのページ「いいね!」1,000人、「フォロワー数」500人以上を目標に議会情報の発信に取り組む必要があると思われる。

## 9. 調査の結果

本委員会では、この間、11回の会議を開き、議会活性化に向けた議論や調査を重ね、着実に実行してきた。

しかしながら、いまだ収束の見込みが立たない新型コロナウイルスの蔓延は、議会活動にも大きな影響を与えている。今年度は議会報告会「議会おでかけトーク」を3年ぶりに開催することができたが、さらに市民との意見交換の場がつけられるよう各種団体や子育て世帯を対象とした女性団体などとの意見交換会の実施を検討する必要がある。こうしたコロナ禍においても、市民に評価、期待される議会を目指し、状況に応じた取組を進めていくことが必要であると考えます。

よって、次期委員会でも本委員会でもまとめた申し送り事項等を踏まえ、議会基本条例の趣旨に則り、加賀市議会の活性化に向けたより一層の取組を期待する。